



**サンドロ・ボッティチェッリ** アレクサンドロ・フィッポーニ  
とディエゴ・ド・トリス  
Sandro Botticelli (Alessandro Filippini and  
Diego di Tisi)  
1445年-1510年(1457-1504年)  
(エスタル記の3つの場面) 1470年  
88×122cm、フレスコ、聖  
フランシスコ、2巻、第8巻、p. 197-198

**サンドロ・ボッティチェッリ** アレクサンドロ・フィッポーニ  
Sandro Botticelli (Alessandro Filippini)  
1445年-1510年  
(若い男の肖像)  
Portrait of a Young Man, 1470年頃  
57×39cm、フレスコ、聖フランシスコ、2巻、第8巻、p. 323

**サンドロ・ボッティチェッリ** アレクサンドロ・フィッポーニ  
Sandro Botticelli (Alessandro Filippini)  
1445年-1510年  
(聖母と若い男の肖像)  
The Virgin and Child with Infant St. John the  
Baptist, 1470年頃  
90×67cm、フレスコ、聖フランシスコ、2巻、第8巻、p. 295

**サンドロ・ボッティチェッリ** (アレクサンドロ・フィッポーニ)  
(聖母子) 遺稿 (ダイエー・ダ・ファエンツァの聖母)

サンドロ・ボッティチェッリ(小さな神という意味)という若者のほうがよく知られているアレクサンドロ・フィッポーニによる聖母子像。まだフィッポ・ボッティチェッリの強い影響下にあった若いころの作品とされる。ボッティチェッリは、1470年まで自分の工房を持っていない。

この聖母子像はミケランジェロのアトナ・ビコナーガにあるキョッピの作品を模したと見られる。どちらも、はるかに彼方に消えていく風景を背景にしているからだ。顔が広く透明なヴェールをかけた優美で少女らしいマリア像もキョッピの影響である。

しかし、キョッピが描いた極端に赤ん坊らしいキリストとはちがひ、ボッティチェッリの幼子は頬も赤くしっぺりした鼻があり、たくましく生き生きしている。マリアはX型の玉座に穏やかにすわっているが、幼子は母の膝を蹴ってまじざり、遊んでもらおうとしているようだ。

母子は互いに一心に見つめ合っており、見る者はうっとり引き込まれ、そこにいる母子のほらえに入りこんでしまう。背景には窓枠が描き込まれ、その外には山岳と雲霧のある実在しない風景が広がる。

**サンドロ・ボッティチェッリ** アレクサンドロ・フィッポーニ  
Sandro Botticelli (Alessandro Filippini)  
1445年-1510年  
(聖母子) 遺稿 (ダイエー・ダ・ファエンツァの聖母)  
The Virgin and Child, known as the Madonna of the Guadi di Faenza, 1465年頃  
73×48cm、フレスコ、聖フランシスコ、2巻、第8巻、p. 299

ヨーロッパ屈指の美術写真家エリック・レッシングが作品を撮影。3000点を超すすべての永久収蔵絵画の画像が掲載。

イントロダクションでは、各コレクションの歴史や特色、意義、ルーヴル美術館の今後の収集方針までを知ることができます。執筆はヴァンサン・ポマレド。

「タイトル」「画家名」「登録番号」「寸法」「画材」「支持体」「展示場所」—すべての絵画の詳細なデータが記載。

主要400作品は、ルーヴル美術館・絵画部門ゼネラルキュレーターのヴァンサン・ポマレドとバンベルグ大学教授のアーニャ・グレーベが解説。鑑賞のポイントを押さえます。

